

(様式1)

平成30年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 033	提案機関名 農業技術センター普及指導部
要望問題名 ナシ改植・補植で問題となっている病害や生育不良対策について	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 現地において、ナシの改植・補植が行われているが、いわゆる忌地問題の他に白紋羽病や胴枯病の多発により、苗植付後数年で枯死に至る例が頻繁にみられる。旧樹の抜根が不十分であることや、長期間の栽培で既に病菌密度が高まっている中で、感染に弱い若齢樹を育てることが原因であるが、通常の作業・防除対応では難しい状況である。 そこで、改植・補植における土壌対策・防除体系についての検討を願いたい。 また、暖冬による萌芽不全・凍害が懸念されているが、本県でも近年若齢樹を中心に萌芽前の芽枯れ等の萌芽不良や一年生枝部分を中心とした黒変枝枯れ症状が散見され、これらが暖冬によるものなのかの原因究明・対策の検討をお願いしたい。 県内全域	
解決希望年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター ②畜産技術センター ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	農業技術センター	担当部所	生産環境部・病害虫研究課 生産技術部・果樹花き研究課
対応区分	①実施 ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名	(①、②、④の場合)		
対応の内容等 改植・補植時に発生している病害が白紋羽病である場合、旧樹の抜根を行うこと、薬剤による土壌消毒を行うことが基本的な防除方法となりますが、薬剤による防除のみでは数年後に再発する可能性もあります。その対策として千葉県から研究成果が出ておりますので（ニホンナシの白紋羽病多発圃場における高温水点滴処理及び各種処理との併用が発病抑制効果に及ぼす影響；千葉農林総研研報、2017）、現地で実施可能かご検討ください。胴枯病につきましては園内の発病樹が主な感染源となりますので、病斑部の削り取り等の対策を徹底することが必要となります。現地での発生状況、防除状況等を調査される場合、協力いたします。また上記病害について防除に関する情報が他研究機関より出されましたら提供させていただきます。 萌芽不良や黒変枝枯れ症状については初冬期の高温による耐凍性獲得の遅延や肥料の遅効きによる耐凍性低下などがあげられ、その原因や被害軽減技術が研究成果としてまとめられています（露地栽培におけるニホンナシ発芽不良軽減のための管理技術：熊本県果樹研究所、ナシの枝幹障害は耐凍性遅延および樹液流動開始時期の低温で発生する：関東東海北陸研究成果・栃木県）。現地で発生している症状が上記紫変色枝枯れ症ではなく、病害と疑われる場合は、生産環境部で診断しますので発生時にご連絡ください。			
解決予定年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備考			